

同行訪問アセスメントの手引き

I 概要

(1) 実施詳細

【内容】自宅への訪問アセスメント

【所要時間】利用者 1 名あたり、おおむね 1 時間以内

【リハ職単価】1 回の訪問＝10,000 円（2 回目以降の訪問：6,500 円）

※実施の翌月に市から1か月分まとめて謝金として支払い。

※事前に市に振込先に関する届出が必要

自宅に直接訪問



利用者 1 名あたり
おおむね 1 時間以内

(2) 訪問回数

○ 原則 1 回 の訪問（初回訪問）

○ ただし、以下の対象者は追加で訪問をすることが可（訪問回数上限＝4 回）

- 追加で訪問指導をすることでセルフマネジメントによる自立した生活が可能となることが見込まれる方
- 地域包括支援センター職員とリハビリテーション専門職が協議し、必要と認められた方

※4回＝初回訪問も含む。

(3) 同行訪問をする方



地域包括支援センター職員
（以下「包括職員」）

&



リハビリテーション専門職
（以下「リハ職」）

※ 原則として包括職員の同行が必要

※ リハ職は、作業療法士または理学療法士の方

※ ただし、リハ職のみの訪問についても必要に応じて実施可（双方の協議が必要）

(4) 対象者

以下の対象者の自宅に訪問し、アセスメントを行う。

【対象者】自宅訪問をすることに同意している方で、以下に該当する対象者

- ① 要支援1・2、事業対象者のうち、以下のサービスを新規で利用希望の方
(末期がん、難病、認知症の方を除く)
 - 通所型サービス(A、C)
 - 訪問型サービス
 - その他、通所型サービスC(短期集中予防サービス)の利用が望ましいと見込まれる方
- ② 事業対象者のうち、市の福祉用具購入助成制度を利用希望の方

※医師の指示書がある場合、特別な理由がある場合は除く

※「要支援1・2、事業対象者の方の新規サービス利用の流れ」参照

※①②それぞれで訪問回数は別とする。

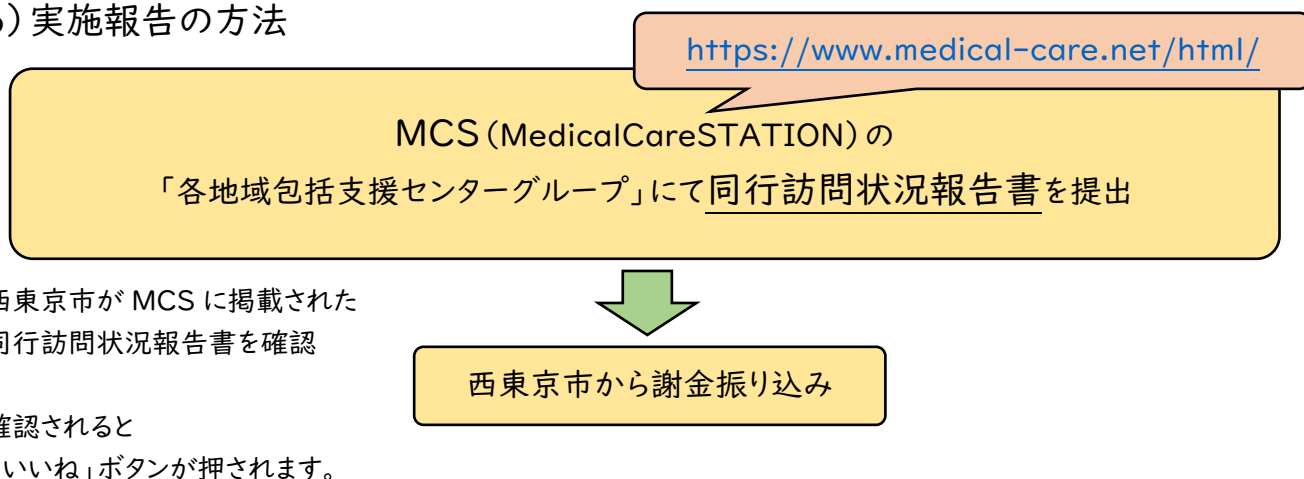
(5) 受付方法



《同行訪問アセスメントは予算に限りがあります》

予算が無くなると同時にそれ以降の同行訪問アセスメントの実施が出来なくなることから、2回目以降の訪問については必要性について慎重に検討をお願いいたします。
(4回以内の訪問で解決の見込みがない場合は、通所C等への移行が望ましい)

(6) 実施報告の方法



2 同行訪問アセスメントのポイント 同行訪問状況報告書は1回の訪問につき1部の提出が必要

(1) 目的

- 支援計画を立てるための、**目標設定支援や通所 C 利用前の合意形成（目標など）**
- アセスメント・助言・指導をもとに、**本人の意欲向上や支援計画の策定**に役立てる。
- 福祉用具購入の必要性の確認

(2) リハ職の役割

対象者が感じている生活課題に対して、その原因が何であるかを明らかにし、
訪問時点での具体的な解決策・選択肢を提案する。

課題の原因は何??



(3) 同行訪問の内容

対象者の生活の様子や身体の状態を確認する。

- ① 生活機能の課題の把握・環境調査 ② 動作指導 ③本人、包括職員との目標共有

(4) アセスメントのポイント

- ICF の視点
- 元の生活を知る。
- 現状の確認（できている事、できていない事の整理）
- 本人に適した支援は何かを考える。



(5) 目標設定のポイント

- 本人が真に望む暮らしとは？（ありたい姿を具体的に描いてもらう）
- 「課題＝目標」ではなく、目指したくなる目標（生きがいや自己実現）を共有する。

